

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072400292		
法人名	株式会社 彩華舎		
事業所名	グループホーム さいら		
所在地	群馬県甘楽郡甘楽町小幡376-1		
自己評価作成日	平成24年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/kanri/10/">http://www.kaigokensaku.jp/kanri/10/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成25年1月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ、陽当たりも良く、ゆっくりと時間が流れる様な環境に立っている為、ホーム内でも、ゆっくりと時間が流れる様に取り組んでいます。また、ご本人のペースや環境を大切に出来る様な対応に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『時間に追われることなくゆったりと過ごしてもらいたい』というホーム側の思いが、利用者の表情からもうかがい知ることができ、温かさやゆったり感が伝わってくるホームである。それぞれの居室にもその人らしさが表れており、こたつや冷蔵庫を置いて自宅での生活が思い浮かぶ利用者もいる。今年度、初めてホームでの看取りを経験した事で、職員の意識にも変化が見られ、今後のサービス提供における課題も明確になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	退職や異動により職員の入替わりがあり、理念について、個々に説明したり、理念の内容を意識する事から始めています。また、元からいる職員にも、理念の忘れていた部分について話したり意識付けを行っています。	開設当初に掲げた3つの柱に『地域和合』を加え、現在の理念にしている。日常の業務を通じ管理者から職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新聞の集金に近所の方が来られたり、ホーム前の畑の主の方が声を掛けて下さったり、野菜を頂いたりしています。	町の行事にはなかなか参加できていない。近所の住民とは挨拶や話をしている。新聞の集金に近所の人に来てくれる。老人会の会長が絵手紙のボランティア講師に来てくれる事にもなっている。	消防署からも協力してもらえる地域の範囲を広げるようアドバイスをもらっており、理解者の輪を広げていく活動を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の人ってどんな人？」等、来客者の方に聞かれる事があり、その都度、誤解されている部分の訂正や、疑問にお答えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や日常の様子など、書面と写真にて報告し、話をしています。参加者の方から、地域の活動についてアドバイスを頂く事がありますが、なかなか実行が出来ていない状況です。	年6回開いている運営推進会議には、行政担当者も3回参加しており、前年度より増えている。家族参加は特定な家族になっている。入所の状況など情報交換が行われている。	家族へのお便りに会議の案内を入れ参加を働きかけ、議事録はホーム内に掲示してはいかがか。議案にホームからの協力依頼やタイムリーな学習も取り入れて、興味を示していただける工夫してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の活動報告書や事業所便りを市町村担当者へ、直接、提出しています。また、入退居が決まる前から、状況を報告しています。	行政には入退居の報告や、毎月発行しているお便りを届けに出向いている。町主催の認知症サポーター養成講座に協力する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、人通りが少ない為、夜間から明け方まで、防犯対策として行っています。極力、職員間での声掛けと、玄関の開閉時のチャイムの使用で施錠をしなくても済む様、努めています。また、職員個々にはなぜ施錠しないのか、開閉のチャイムを使用するのか等の説明を行う事で拘束に対する注意を促しています。	玄関にはチャイムが付いている。夜間職員が一人体制になる以外は玄関は施錠していない。身体拘束についての学習会は、特に行ってない。	職員は、身体拘束についての研修会の機会を得て、事業所内では伝達講習で情報の共有を図ってほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待を生み出さない様に、介護ストレスや人間関係の把握、調整に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では、研修等の参加は出来ておらず、事業所内でも勉強する時間などを設けていない為、今後、時間を作る事から検討していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解除時には運営規定や重要事項説明書に基づいて、ご家族の納得が得られるよう、一つ一つの項目に対して説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時には苦情や要望などを伝えられる外部機関がある事を説明しています。また、面会時などに状態を報告し、質問や要望を管理者から職員まで共有しています。	家族には面会や電話連絡の際に意見を聞くようにしている。具体的にケアについての要望も出されている。身体の機能が低下しないよう話し合いをしてケアに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案や意見は管理者に直接伝えたり、スタッフ会議内の議題や、必要に応じては管理者会議内でも、話し合っています。	スタッフ会議を月に1度開いている。管理者からの報告や利用者の情報交換を行い、利用者・家族に対する対応を統一している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度、各事業所管理者と事業部長が集まり定例会議を行い、各事業所の利用者様や職員の状況などを報告し、その場で解決に向けた話し合いを行い、実践に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修から各段階の職員を分け、その段階に見合った研修を定期的に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流会などを考えていますが、実際は、管理者同士で意見を話し合う場が多く、職員同士の交流までは出来ていない状況です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時点で、ご本人の状態や人柄などを把握する様に努めています。また、入居初期には、自己紹介から始め、失礼の無いコミュニケーションを行う様に指導しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な点を把握し、電話対応等も含めて丁寧な対応に努めています。また、面会時など、職員がその場で受けた質問にも答えられる様に伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の心身状態や経済的状況などを勘案し、当事業所以外のサービスが適していると判断された場合は、他事業所を紹介する等の対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の自然な欲求や感情を大事にする為に、業務の見直しを常に行っています。一緒に家事作業を行ったり、出来ない事を教えて頂いたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所側で全てをこなし、ご家族が介入しなくても済む様にするのではなく、利用者様の状態を知って貰い、協力して頂ける様な関係作りを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の方の面会時には丁寧に対応し、ゆっくり過ごして頂ける様に配慮しています。また、今まで慣れ親しんだ事なども行える様に支援しています。	家族や知人等の面会には、時間制限はしていない。食堂や居室で自由に過ごしてもらっている。家族や友人への手紙の作成や電話かけなどの支援も積極的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様1人1人の特徴や、人間関係を把握し、それに合わせたレクリエーションや家事作業を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談などは管理者の方で随時受付、ご家族やご本人が連絡しやすい関係性を保っています。また、退所後も面会に出向く事もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や行動から、それぞれの想いや希望を把握する様に努めています。また、コミュニケーションの重要性についても指導しています。	入居時に家族から情報を聞き、思いや意向の把握の参考にしている。利用者ひとり一人の個性を『知る』事が大切と捉え、会話を重視している。正月は絵馬に希望を書き、食堂に飾った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員とご家族との信頼関係が築ける様に配慮し、ご本人から聞いた昔話の確認や、入居前までの情報を取得しています。教えて頂いた情報は職員間で共有し、活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人をしっかり観察し、状態の変化などを記録に残し、把握しています。月に1度の会議内でも、状態の確認や意見交換を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のスタッフ会議内で、必ず利用者処遇についての意見交換や進捗状況について話し合いを行っています。また、それを元にケアマネージャーが作成しています。	介護計画はスタッフ会議で話し合っている。月に1度のモニタリングもケアマネージャーを中心にしている。計画は3カ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきは口頭の申し送りの他に記録に残したり、職員同士での意見交換中に、対応策の見直しなどを検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提供している対応方法を変える必要がある場合には、直ぐに変更出来る様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の慰問や来客者を積極的に受け入れる事で、外部の空気を取り入れる様に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月に一回の往診と、状態に応じてご家族の承諾を得てから受診に出向いている。ご家族が難しい場合は、職員が受診対応を行っています。	現在、2名のかかりつけ医がおり、月に1度往診をしてもらっている。緊急時を含め受診は事業所が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の週一回の来所と、24時間連絡がとれる状態で配置しており、必要に応じ、健康管理などの相談や報告、ご家族へ説明する時に同席して貰う等の対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の意向を中心に、利用者様の状態に合った対応を病院関係者と検討しています。また、入院中は可能な限り、病院に出向き、ご家族やご本人が不安にならない様支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で終末期についての説明を行っています。主治医や看護師、職員、ご家族で意向を検討し、極力、全員が受け入れられる様に必要な場合は常に話をしています。	入居時に事業所の指針を提示し説明している。今年度『看取り』を行った際も、医師の意見を書面で示し、家族の意向を確認しながら関係者で連携した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などの対応については、看護師に相談し、申し送りや直接、指導をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施。また、社内異動や入職したての職員には、避難経路や通報の仕方などの説明を行っています。	消防署の立ち会いで昼間想定総合訓練と夜間想定避難通報応急救急訓練を実施した。近隣住民に限らず、協力者の輪を広げるよう助言があった。備蓄として乾パンや水等用意している。	避難誘導は日頃の訓練が有効なため、自主訓練の実施を進めていただきたい。協力者の輪が広がることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の状態に合わせた声掛けの仕方を心掛けています。また、一緒の時間を過ごす中で、馴れ馴れしい態度になったり、相手との関係性を自覚した上で接する様に取り組んでいます。	利用者に対して、新鮮な気持ちで接する事が尊重に繋がると日頃から考へ、対応するよう働きかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人一人の考え方や思い方が違う事を理解した上で接する様に心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務などに厳密な決まりはなく、利用者様の状態に応じた対応が出来る様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を2～3ヶ月と定期的にご利用しています。利用者様に希望に合わせて入浴したり、その方の生活リズムを把握した上で、必要な場所へ鏡やクシの設置などを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は配達ですが、ホーム内の台所で職員が毎食作り、食事を提供しています。盛り付けや片づけをその時々ですが利用者様と一緒にいたりしています。	食材は業者から届けられる。職員は味付けなど工夫をして毎食提供している。利用者におぼんや茶碗拭きなどをお願いしている。食事は利用者と職員と一緒に食べている。	食事内容について家族の意見を募るために、メニューや写真をお便りに盛り込んでみてほしい。業者に職員の意見も伝え、食事の楽しみがより充実したものになるよう工夫してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やお茶が目安としては決まっていますが、その日の状態に応じて時間をずらす等の対応を行っています。また、随時、声掛けなどで確認し、水から要求できない人への配慮もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や朝・夕食後のみの方もいますが、個人個人の希望や状態に応じて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツや排泄用品などは使用せず、排泄の兆候やリズムを把握し、トイレで排泄出来る様に心掛けています。	トイレでの排泄支援を基本にしている。コストの削減も考慮し、声掛けや誘導をしている。チェック表を活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談しながら、内服薬の調整を行っています。また、利用者様の排便のリズムなどを把握し、内服薬だけに頼らない対応を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日を決めず、利用者様の希望した時間に入浴を行っている。また、入浴中には全身状態の観察も行っています。	午前・午後とも、希望に応じ毎日入浴支援をしている。利用者は毎日でも入浴できる事は承知しているが、1日おきの希望やシャワー浴など、その人のリズムを大切に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活リズムや前後の状況などを把握し、自然な休憩がとれる様に支援しています。また、必要に応じて、主治医や看護師への相談も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容に変更があった場合には、口頭やノートの使用、記録記載にて職員間で共有し、変更になった理由等の説明も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、利用者様それぞれの好きな事などを把握し、その上で選択肢を提供させて頂いています。また、それを楽しみながら行って頂ける様な環境作りを行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然に外に出られる方や掃き出し窓から畑へ出て行かれる等、ご本人が希望されたり、外に出る行動が観られた時には、極力、一緒に外へ出られる状況を作っていますが、日常的な外出は実践出来ていない状況です。	玄関前の椅子で休んだり、庭の畑で過ごす事もある。居室の掃き出し窓からは自由に出られる。季節ごとの外出も年に数回組んでいる。日常的な外出を増やしたいと考えている。	個別支援にも工夫しながら外出の機会を増やしてみたい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には管理して頂き、身の回りの品物は購入出来る様、支援しています。ご家族へも、金銭管理に関しての理解と支出の説明をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から要望があった場合やご家族、知人の方から連絡があった場合には、電話が行える様に支援しています。また、手紙も職員が変わりに投函し、やり取りが続く様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にソファ、玄関に椅子を設置し、利用者様がくつろげる場所の確保をしたり、会話が弾む方々が和める様な環境支援を行っています。	季節の花をテーブルに飾ったり、季節の飾り付けが工夫されている。気になる臭いもなく、明るく合理的な作りで、ゆっくり生活できる環境になっている。	使い慣れたトイレを希望する利用者が重なる事があるとのこと。利用者に待ってもらわなくて、2か所のトイレが活用できる工夫をしてほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に広がりがあり、日光浴をしたい人やテレビ鑑賞、読書をしたりと、ご自身のペースで生活出来る様に支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や家具を設置したり、利用者様が希望する物はご家族と相談し、検討しています。	こたつやソファ、仏壇やテレビ、冷蔵庫や装飾品など、それまでの生活が思い浮かぶ居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態を把握し、過剰な介助は行わない様に努め、廊下や食堂に事故に繋がる様な物を置かない様にしています。		